

● **本田防除剤** ※「令和3年JA広島市稲作ごよみ」から

**【安佐・山県エリア】**

標高の高い地帯は田植えが早く、品種もコシヒカリなど早生品種が多い。早生品種は、穂ばらみ期～出穂期が梅雨の末期と重なり、穂イモチ病の感染リスクが高い。山際や広い法面など雑草地が多いところでは、カメムシの被害が発生しやすい。南部ほどではないが、近年はウンカの被害が広がりつつある。

**【防除ごよみ】**



**粉剤** 穂ばらみ期の防除には「ベームバシボン粉剤DL」を、穂ぞろい期の防除には「ラブサイドスタークル粉剤DL」を必ず施用してください。

**粒剤** 「コラトップトレボン粒剤」と「スタークル粒剤」の2回の散布をおすすめします。

**その他** 例年、カメムシ類による斑点米の発生する水田では、穂ぞろい期の防除から7～10日後の乳熟期に、「トレボン粉剤DL」の散布をおすすめします。

**散布する薬剤の選び方について**

	長所・短所など	留意点
<b>粉剤</b>	長所…薬成分を粘土の粉などの増量剤で希釈しており、均一に散布できる。すぐに効力を発揮する。 短所…散布直後に雨が降ると薬剤成分が流されてしまう。	雨を避けて散布。また、トビイロウンカは株元水面近くに生息しているので、散布の際は、薬剤が株元に十分届くように動力散粉機の風力調節が必要。
<b>粒剤</b>	長所…粉剤に比べ飛散することがなく、効率よく散布できる。雨の影響を受けにくい。 短所…水に溶けた薬剤を稲が吸収してから薬効が出るまでに時間がかかる。価格が高い。	粉剤より早めに散布すること。大雨の前の散布は避ける。根が健康でなければ薬剤成分を十分に吸収できず効果が表れにくいので、水管理を徹底し根の健全性を保つ。
<b>液剤</b>	長所…価格が安い。 短所…散布直後に雨が降ると、薬剤成分が流されてしまう。	株元に十分届くよう薬剤散布する。強風時の散布は避ける。

**「観察と記録」こそ最大の防御**

近年は、高温傾向の中で、一発肥料が早く溶け出してしまい、生育後半は栄養不足状態になっている圃場が散見されます。一方で、極端な多肥により葉色が濃くなれば病害虫が発生しやすくなります。満足できる収量を得るためには、適量の穂肥を施し、登熟期の稲の栄養状態を維持・向上させる必要があります。さらに、予測できない異常気象が続くなかで病害虫を確実に防除するには、農薬の散布適期を判断するために圃場をしっかり「観察」し、「記録」することの繰り返しが大切です。

**害虫の「観察」の仕方**

虫見板でウンカの状態(卵・幼虫・成虫)と密度をチェックしましょう!



「令和3年JA広島市稲作ごよみ」での確認に加え、広島県西部農業技術指導所による発生予察情報や技術情報、JA広島市の「営農経済部お役立ち情報」で随時状況をご確認ください。そのほか、病害虫が発生しにくい栽培技術の紹介や農家組合員それぞれの圃場に適した薬剤の提案もいたします。気になることがあれば、早めに地区担当の営農指導員にご相談ください。

